

においても適用可能なものであり、我が国のロケット設計技術を著しく高めることができたと考える。

**独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙基幹システム本部
H- Aプロジェクトチーム（SRB-A担当）の
優れた成果について（案）**

4. 宇宙開発委員会としては、本プロジェクトチームのこれまでの信頼性向上に向けた取組を高く評価し、敬意を表するものである。今後ともJAXAにおいては、引き続き本件のような取組が活発に行われることを期待する。

平成18年8月30日
宇宙開発委員会

（この後に[委28-1](#)(3ページもの)のコピーが添付されている。)

1. H- Aロケット6号機の打上げ失敗の原因である固体ロケットブースタSRB-Aの局所エロージョンについては、SRB-Aのノズルに所要の改良が図られ、H- Aロケットは連続して打上げに成功している。
2. 独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙基幹システム本部H- Aプロジェクトチーム（SRB-A担当）においては、宇宙開発委員会が求めた対策から更に進んでその局所エロージョンの発生メカニズムの究明を行うとともに、更なる信頼性と性能の向上を目指してSRB-Aのノズル設計の最適化に努めてきた。
3. 平成18年7月20日に実施されたSRB-A実機大モータ取得試験では、所期の局所エロージョンの排除が実証された。今回の成果は、SRB-Aのみならず、他の固体ロケット技術に